

ヨハネの福音書 (53)

「イエスの宗教裁判」

ヨハ 18 : 12~27

1. 文脈の確認

- (1) 前書き (1 : 1~18)
- (2) イエスの公生涯 (1 : 19~12 : 50)
- (3) イエスの私的奉仕 (13 : 1~17 : 26)
- (4) イエスの受難 (18~20 章)
 - ①イエスの逮捕 (18 : 1~11)
 - ②イエスの宗教裁判 (18 : 12~27)

2. 注目すべき点

- (1) イエスは抵抗せず、自ら進んで捕らえられた。
 - ①主権者はイエスである。
- (2) イエスはアンナスのもとへ連行された。
 - ①公的な大祭司はカヤパであった。
 - ②アンナスは「影の権力者」であった。
- (3) 光と闇の対比が描かれている。
 - ①イエスは真理を公然と語る「光の側」。
 - ②ペテロは火のそばで闇に取り込まれていく「弱さの側」。

イエスは主権者である。

このことは4つの段階を通して明らかになる。

I. アンナスのもとに連行されるイエス (12~14 節)

1. 12~13 節

Joh 18:12 一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、

Joh 18:13 まずアンナスのところに連れて行った。彼が、その年の大祭司であったカヤパのしゅうとだったからである。

- (1) イエスは抵抗しなかった (神の主権)。
 - ①ローマ権力とユダヤ宗教権威が結託した異常事態。
 - ②無抵抗のイエスを不必要に縛ったのは、恐れと敵意の反映である。
- (2) 「まず」(プロウトン) は強調で、裁判の順序の異常さを示す。
 - ①現職の大祭司カヤパのもとへ行くべきだが、アンナスに送られた。

- ②これは権力構造の実体を暴露している。
- ③アンナスはカヤパの義父であった。

(3) アンナスが築いた「祭司の王朝」

- ①アンナスは紀元 6~15 年にローマから任命された大祭司。
- ②その後、5 人の息子と娘婿カヤパが大祭司職についた。
- ③事実上「祭司の王朝」を築き、宗教権力の背後に君臨。
- ④ユダヤ人の中では、実質的権威はアンナスにあると見られていた。

2. 14 節

Joh 18:14 カヤパは、一人の人が民に代わって死ぬほうが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

- (1) カヤパは紀元 18-36 年の大祭司。
 - ①ローマによって任命され、政治的にローマの意向に沿う立場にあった。
 - ②彼の発言を繰り返している (ヨハ 11 : 50)。
 - ③「ローマの怒りを避けるためにイエスを犠牲にしよう」という政治的助言。
 - ④ヨハネは、それを「神の救済計画の預言」と読み直している。

II. イエスを拒むペテロ (15~18 節)

1. 15~16 節

Joh 18:15 シモン・ペテロともう一人の弟子はイエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の家の中庭に入ったが、

Joh 18:16 ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いだったもう一人の弟子が出て来て、門番の女に話し、ペテロを中に入れた。

- (1) 従う者の違い
 - ①動揺するペテロ
 - ②静かな証人ヨハネ
- (2) 社会的立場の違いを用いる神
 - ①「もう一人の弟子」とはヨハネである。
 - ②彼は大祭司の知り合いであった。
 - ③彼の身分が用いられた結果、裁判記録が残されることになった。
- (3) 外に立つ危うさ
 - ①中途半端な立ち位置が否認を招く。

2. 17～18 節

Joh 18:17 すると、門番をしていた召使いの女がペテロに、「あなたも、あの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは「違う」と言った。

Joh 18:18 しもべたちや下役たちは、寒かったので炭火を起こし、立って暖まっていた。ペテロも彼らと一緒に立って暖まっていた。

(1) 「あなたも、あの人の弟子ではないでしょうね」

- ① $\mu\eta$ + 疑問形 → 「否定を予想する質問」
- ② 「まさか、あんたもこの人の弟子じゃないよね？」
- ③ ペテロにとっては答えやすい状況（しかし信仰的には試練）。

(2) 「違う」

- ① 短い断言
- ② ペテロの明確な否認。ここで第 1 回目の否認が成立。
- ③ 「召使いの女」の前での否認は、人間の弱さを露わにしている。

(3) 「炭火」

- ① 春先、夜間は冷える。
- ② ペテロは敵の陣営の中に立っている。
- ③ ヨハネ 21 : 9（ペテロの回復の場面）でも再登場。
- ④ 意図的な対比：「否認の炭火」と「回復の炭火」。

III. イエスを尋問するアンナス (19～24 節)

1. 19 節

Joh 18:19 大祭司はイエスに、弟子たちのことや教えについて尋問した。

(1) アンナスは「大祭司」と呼ばれている。

- ① 実質的な権威を有していた。
- ② 大祭司は終身職なので、辞職後もそう呼ばれる資格があった。

(2) 尋問の内容

① 弟子たちのこと

- * 仲間の規模や性質に関心を持っていた。
- * 反乱分子がどうかを探る政治的意図を反映している。

② 教え

- * イエスの教えが律法に違反していないかを追求する意図がある。

(3) アンナスによる「予備審問」は違法である。

①証人を呼ばず、イエス本人に直接尋問している。

2. 20～21 節

Joh 18:20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に対して公然と話しました。いつでも、ユダヤ人がみな集まる会堂や宮で教えました。何も隠れて話してはいません。

Joh 18:21 なぜ、わたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、それを聞いた人たちに尋ねなさい。その人たちなら、わたしが話したことを知っています。」

(1) 「世に対して公然と話した」

①大胆に、率直に、公然と

②完了形 (λ ε λ á λ η κ α) で「今もその影響が残っている」ことを強調。

③イエスの宣教は秘密結社ではなく、誰でも聞くことができた。

(2) 「何も隠れて話してはいません」

①同じ事実を別の角度から述べている。

②宣教が公のものであることは、今も変わっていない。

(3) 「なぜ、わたしに尋ねるのか」

①反問形で、アンナスの取り調べが不当であることを指摘。

②ユダヤ法では、裁判は必ず証人によって立証されるべき。

(4) 「それを聞いた人たちに尋ねよ」

①完了形「ἀ κ η κ ο ó τ α ς」で、「聞いたことがあり、今も覚えている者たち」。

②つまり、証人を呼べばすぐに確認できるという意味。

③裁判の不当性を指摘された。

3. 22～23 節

Joh 18:22 イエスがこう言われたとき、そばに立っていた下役の一人が、「大祭司にそのような答え方をするのか」と言って、平手でイエスを打った。

Joh 18:23 イエスは彼に答えられた。「わたしの言ったことが悪いのなら、悪いという証拠を示しなさい。正しいのなら、なぜ、わたしを打つのですか。」

(1) 「平手でイエスを打った」

①侮辱行為の意味が強い。

②公判中の被告を殴ることはユダヤ法でも違法。

(2) 下役の行為は、不正を覆い隠すための暴力である。

①十字架の道への第一歩

(3) イエスは、冷静に裁判の正当性を求めた。

①侮辱を受けつつも、依然として「裁く者」としての姿を示す。

4. 24 節

Joh 18:24 アンナスは、イエスを縛ったまま大祭司カヤパのところに送った。

(1) イエスは「縛られたまま送られた」

①アンナスが実質権力を握りながらも公式裁判権はなく、カヤパに移送された。

②不正な尋問と屈辱の継続

③それは、神の救済計画の一部であった。

IV. イエスを 3 度拒むペテロ (25～27 節)

1. 25 節

Joh 18:25 さて、シモン・ペテロは立ったまま暖まっていた。すると、人々は彼に「あなたもあの人の弟子ではないだろうね」と言った。ペテロは否定して、「弟子ではない」と言った。

(1) ペテロはすでに 1 度否認した後も、「敵陣」にとどまっていた。

①からだは温まったが、心は冷えていた。

(2) 今度は「人々」が質問した。圧力が増している。

①否定を予想する質問である。

②ペテロは、短く答えた。

2. 26～27 節

Joh 18:26 大祭司のしもべの一人で、ペテロに耳を切り落とされた人の親類が言った。「あなたが園であの人と一緒にいるのを見たと思うが。」

Joh 18:27 ペテロは再び否定した。すると、すぐに鶏が鳴いた。

(1) 肯定的答えを期待する質問

①3 度目で「完全な否認」に到達した。

②他の福音書によると、ペテロは「呪いをかけて誓って」否認した(マタ 26:74)。

(2) 否認の進展

①1 回目 (17 節) : 召使いの女 → 軽い問いかけ。

②2 回目 (25 節) : 複数の人々 → 社会的圧力が増す。

③3 回目 (27 節) : 大祭司のしもべ → 証拠を伴う問いかけ。

(3) ヨハ 13 : 38 の成就

Joh 13:38 イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

①ペテロの失敗は、神の計画の中で許容されていた。

②ペテロの回復が用意されていた (ヨハ 21 章)。

結論 : 今日の信者への適用

1. 人間の権威と神の主権

- (1) イエスは下役に「縛られ」たが、実際にはご自身を進んで差し出しておられた。
- (2) 環境や権力に支配されているように見えても、神の御手が私たちを支えている。

2. 外的安心と内的冷え込み

- (1) ペテロは「炭火で暖まりながら」否認を重ねた。
- (2) 快適さや安全を優先すると、信仰の証しを失う危険がある。

3. 失敗を通して働く神の恵み

- (1) ペテロの三度の否認は、イエスの預言の成就であった。
- (2) 失敗は恥で終わらず、悔い改めと回復へと導かれる。